

| | | | | | |
|----------------|---|------|------|--------|-----------|
| 科目名 | 金融論Ⅰ | | 担当教員 | 加納 正二 | |
| 単位 | 2単位 | 講義区分 | 講義 | ナンバリング | EI2ECA305 |
| 期待される学修成果 | | | | | |
| アクティブ・ラーニングの要素 | 該当なし | | | | |
| 実務経験 | (空白) | | | | |
| 実務経験を生かした授業内容 | (空白) | | | | |
| 到達目標及びテーマ | 金融に関する基礎知識をマスターし、銀行の機能をフィンテックとの対比において理解できるようにする。また少子高齢化、低金利という環境におかれた地域金融機関の状況を理解し、地域金融の理論と現代的な諸問題を理解することができるようにする。 | | | | |
| 授業の概要 | 金融の基礎、銀行の機能、地域金融の理論、フィンテックや地域金融の諸問題を学ぶ。 | | | | |

| | |
|------|--|
| 授業計画 | |
| 第1回 | イントロダクション、講義のやり方、成績評価の方法 |
| 第2回 | 情報の非対称性が緩和されない場合の問題点、銀行の機能、教科書1章 |
| 第3回 | 銀行の機能、ブルーデンス政策、教科書1章 |
| 第4回 | メインバンクシステム、銀行経営、教科書1章 |
| 第5回 | 護送船団方式、ビッグバン、日本銀行、金融政策、教科書1章 |
| 第6回 | 地域金融の概念、中小企業金融の概念、教科書2章 |
| 第7回 | アベイラビリティとソフト情報の歴史：教科書2章 |
| 第8回 | 信用金庫の仕組み、公的金融の意義、教科書2章 |
| 第9回 | リレーションシップバンキングの仕組み、銀行と企業の取引関係、教科書3章、4章 |
| 第10回 | 地域密着型金融におけるメリットとデメリット、教科書5章、6章 |
| 第11回 | 人口減少社会と地域金融機関の店舗戦略、教科書7章 |
| 第12回 | 可能性を秘めた地域のビジネスと地域への貸出業務、教科書8章 |
| 第13回 | 地域金融機関とフィンテック、教科書9章 |
| 第14回 | フィンテック時代の地域金融機関の生き残り戦略、教科書10章 |
| 第15回 | まとめ、質問 |

| | | |
|------------|--------------------|----------------------------|
| 事前学修 | 2時間 | 教科書の該当の章を読むこと。 |
| 事後学修 | 2時間 | 教科書の該当の章を復習し、講義ノートを読み返すこと。 |
| フィードバックの方法 | 毎回の講義で質問の時間帯を設けます。 | |

| | |
|------|--|
| 補足事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は指定テキストに準拠して行います。各自、紙の指定テキストを持参の上、講義に臨んでください。テキストを複写することは著作権法違反になります。 ・講義中に電子機器を使用することについて合理的配慮の申請が事前に承認された学生以外は、板書をパソコンやタブレットなどの電子機器で記録したり写真撮影を行ったり、講義を録音することは禁止します。 ・受講に際して、補聴器が必要な学生は事前に医師の診断書を提出してください。 ・講義中は、講義に集中してください。講義中の私語、スマホ・電子機器使用、食事、その他講義に無関係な行為は禁止します。 ・講義室では脱帽してください。 ・試験は指定教科書のみ、持ち込み可とします。 |
|------|--|

| | | | | |
|-------------------|----------------------|-----|-------------------|------------------------|
| 教科書 | | | | |
| 書名 | 著者 | 出版社 | ISBN | 備考 |
| 地域密着型金融の限界とフィンテック | 加納正二 | 三恵社 | 978-4-86487-984-2 | 講義は教科書に準拠して進めますので必需品です |
| 参考資料 | 「令和新時代の金融知識」加納正二、三恵社 | | | |

| | | |
|--------|--------|--------------------|
| 成績評価方法 | 割合 (%) | 評価基準等 |
| 定期試験 | 100% | 出題意図にあう答案を論理的に書くこと |